特集

〜がんになったとき、からだやこころの苦痛を和らげる医療があることをご存じですか？〜

緩和ケアセンターのご案内

はじめに

緩和ケアセンターでは、がん患者さんやご家族の抱えるさまざまな苦痛を和らげることを目指し、緩和ケアに関する3つの医療（緩和ケア外来、緩和ケアチーム、緩和ケア病棟）を行っています。

緩和ケアを考えるのに、早すぎるということはありません。がんに伴う身体のつらさだけでなく、気持ちのつらさや、生活上で困っていることなど、ひとりで抱えずにご相談ください。がん治療の各段階に合わせて、最適な緩和ケアの形を提案していきます。

緩和ケア病棟

緩和ケア外来（予約制）

がんに伴う痛みなどの身体の症状や、がんの治療に伴う気持ちのつらさを和らげるため、外来通院での緩和医療を提供します。医師の診察だけでなく、専門の看護師や薬剤師による相談も受けられます。

【外来日】月・木　14時～16時

緩和ケアチーム （P2で紹介）

一般病棟に入院中の患者さんに対し、医師や看護師に加え、薬剤師や管理栄養士、公認心理師、医療ソーシャルワーカーなどの多職種によるチーム医療を提供します。

緩和ケア病棟 （P3で紹介）

つらい症状があり、在宅での療養が困難な患者さんに、入院での緩和医療を提供します。つらい症状が緩和されれば、可能な限り在宅での生活に戻ることも目指しています。

がん看護専門看護師
佐藤　香奈
さとう・かな

緩和ケア科 主任診療科長
緩和ケアセンター長
粕田　晴之
かすだ・はるゆき
宇都宮生まれ。順天堂大学、自治医科大学、栃木県立がんセンターを経て、2014年から当院勤務。麻酔科／ペインクリニック、漢方医学、心身医学の臨床経験を生かし、患者さんとご家族の身体と心のケアに努めます。
健康スローガン「車を降りて街を歩こう」。

緩和ケア認定看護師
伊澤　紀子
いざわ・のりこ

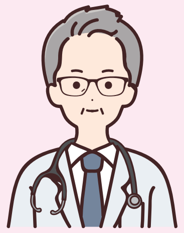
緩和ケア認定看護師
飯田　梢
いいだ・こずえ

緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、当院に入院している患者さん・ご家族なら、治療の初期段階からどなたでもご利用いただけます。主治医や病棟看護師と一緒に、緩和ケア専門のスタッフが協力して、病気のこと、生活のこと、その他気になることなどを多職種で共に考えます。

緩和ケアチームの主なメンバー

医師

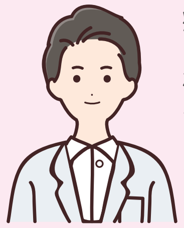


主治医と共に、痛みなど身体症状を担当する医師と、不眠や心の辛さなど精神症状を担当する医師が協力してサポートします。

看護師

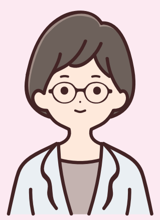
病棟担当看護師と共に、緩和ケアに関する専門の知識をもった看護師が関わります。

薬剤師



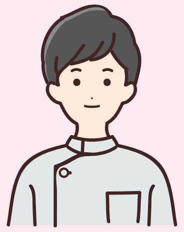
痛みをはじめとした、さまざまな症状を緩和するための薬について相談を受けます。

管理栄養士



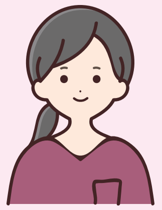
心身の状態に合わせた食事の内容、形態について提案します。

公認心理師



気持ちのつらさに対して専門的にサポートします。

医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）



生活全般の経済面や福祉制度、在宅療養の調整などをサポートします。

緩和ケアという言葉は以前より浸透してきましたが、抵抗感を抱く方も少なくありません。緩和ケアは全てのがん患者さんに提供するものです。私たち緩和ケアチームは、患者さんがその人らしいより良い療養生活を送ることができるように支援し、患者さんをそばで支えるご家族も一緒にサポートします。

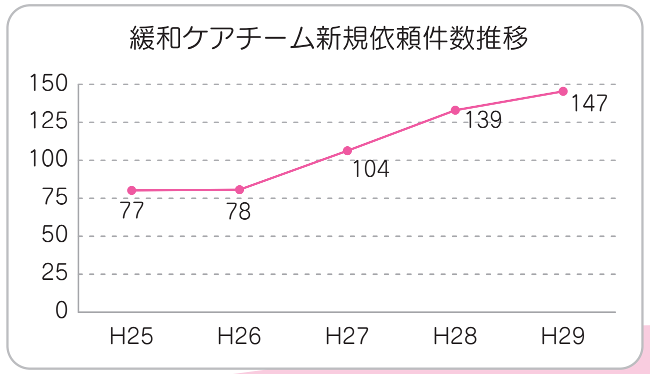
回診前ミーティング

病棟回診

カンファランス

例えば、こんなとき利用してください

- 痛みやだるさ、息苦しさ、吐き気など身体のつらさ
- 眠れない、不安、気分が落ち込む、家族のストレスなど　気持ちのつらさ
- 医療費や生活費について、家族の悩み、仕事の悩み、退院後の生活など生活に関わる心配事



緩和ケア病棟

当院は、平成８年に栃木県初の緩和ケア病棟を開設しました。緩和ケア病棟は、がんに伴う身体や心のつらさなどの症状をできる限り和らげることを目指す病棟です。通院では症状を和らげることが難しく、入院が必要とされた患者さんが対象です。

以下の目的で入院ができます

1. 痛みによる身体的・精神的苦痛など、つらい症状を和らげるための入院（１カ月前後）。
2. 在宅介護でお疲れになったご家族の休養を目的としたレスパイト入院（1～2 週間程度）。
3. 終末期を安らかに過ごすことを希望しての入院。
4. 症状が緩和されたのち退院し、自宅や介護施設で過ごすことを目標とする入院（退院支援）。

緩和ケア病棟へ入院までの手続き

❶入院申込書への記載

病気のことや受けているサービスのこと、緩和ケア病棟のイメージや入院時の希望をお聞きします。

❷面談・緩和ケア病棟の説明

患者さん･ご家族と医師･看護師･薬剤師で面談し、緩和ケア病棟に対するご理解を確認します。

❸病棟入棟判定・緩和ケア登録

病棟入棟判定・緩和ケア病棟登録が済むと、主治医の指示のもと必要な時に入院が可能となります。

入院費用について

- 「緩和ケア病棟入院料」という定額制度（１日の医療費が一定）で、公的医療保険が適用になります。高額療養費制度の対象となるため、通常は、一般病棟での入院費用と大きく変わりません。
- 食事代や個室代（１日 10,000 円＋税）は公的医療保険の適用外で、一般病棟と同様に自費となります。

緩和ケア病棟（20 床）は９階にあります。医療スタッフとボランティアで季節を感じる行事の開催や、音楽の演奏などを行い、患者さんやご家族により良い時間をお過ごしいただけるよう支援しています。

９階西病棟　課長
橋口　ユミ
はしぐち・ゆみ

緩和ケアと食事の話

食べることは人間の基本的欲求の一つです。しかし、患者さんの病状が進むにつれ食欲が低下し、食べられるものが少なくなったり、食べることに苦痛を感じたりすることもあります。

このような場合には、栄養管理や栄養摂取に重点をおくよりも、患者さんが食べたいものや好きな食べもの中心の献立、患者さんの好みの味付けでの調理など、少しでも食べられるように工夫することが重要です。食欲を少しでも高められるように、少なめの量で、彩りのある盛り付けを工夫したり、旬のものを取り入れたりして、食事を楽しめるよう配慮することも大切です。食事の際にはベッドサイドの環境を整え、食事のとりやすい体位を調整し、患者さんの食べるペースに合わせます。

患者さんの経口摂取量が少なくなると、家族や親しい人々は患者さんの体力がますます低下するのではないかと心配し、患者さんに食事摂取を強く勧めることがありますが、それはかえって患者さんの精神的苦しみを増強させることにもなります。無理のない楽しい食事を心がけましょう。

■医療栄養科
がん病態栄養専門管理栄養士
岡本　憲一

食事に関するご相談があればお気軽に近くのスタッフまで

がん患者会でのレクチャーの様子

✔ Check！

がん診療連携拠点病院とは？

がん診療連携拠点病院とは、どこに住んでいても質の高い、がん医療が受けられるように、がん診療の拠点として厚生労働省が指定した病院です。当院は平成 19 年に「地域がん診療連携拠点病院※」の指定を受けました。

【役割】

- 緩和医療の提供体制
- 専門的ながん医療の提供
- 地域のがん診療の連携協力体制の整備
- 患者・住民への相談支援や情報提供　など

がん相談支援センター

専門のスタッフが、がんに関する相談をお受けしています。場所は P13 をご参照ください。

担　　当	日　　時
緩和ケア認定看護師　伊澤 紀子	平　日　9：00～17：00 土　曜　9：00～12：00
がん看護専門看護師　佐藤 香奈	

※原則として各都道府県に１か所指定される「都道府県がん診療連携拠点病院」と各地域（２次医療圏）に１か所指定される「地域がん診療連携拠点病院」の２種類があります。